

1 開会

○司会 それでは、定刻が参りましたので、ただいまより令和4年度岡山市基本政策審議会を開会いたします。

開会に当たりまして、大森市長からご挨拶を申し上げます。

2 市長あいさつ

○大森市長 皆さんこんにちは。今日はお忙しい中、基本政策審議会にご出席をいただきましてありがとうございます。

まずは、新型コロナウイルスの関係ですが、岡山市はピークが8月18日でした。岡山市だけで1,807という感染者を出していたところですが、次第に減ってきたところですが、この二、三週間も各地同様、若干増える傾向にあり、毎日200人から500人程度の感染者が出ているところではあります。

しかしながら、経済も一部いいところはいいのですが、やはりコロナの影響で厳しいところが多く、特に11月については、ウィズコロナで経済を何とかしなければということで、キャッシュレス決済、岡山城のリニューアルオープン、おかやま馬拉ソン、様々な動きで今やらせていただいているところでもあります。またあわせて、まちなかの整備では、ハレまち通りの1車線化も動き出しましたし、岡山芸術創造劇場ハレノワも今年の12月には我々に引き渡される予定になっております。完全な稼働は来年の9月ですが、岡山の街が変わりつつあるのではないかと考えております。

教育についても一定の成果を、教育委員会のご尽力により動いておりますし、待機児童はほぼ解消となりました。福祉についても、しかるべき対応をきちっと取らせていただき、健康寿命は延伸の傾向にあります。

このような中で、今、いいことばかり申し上げましたけれども、まだまだやらないといけないことが多いことはそのとおりでありまして、課題も山積しているところでもあります。今日は、この1年間、そして今後の岡山市の様々な計画、動きについてご指摘をいた

だいて、我々としては皆様方のご意見を踏まえて次のステップに上がっていきたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げたいと思います。今日は本当にありがとうございます。

○司会 本審議会の任期ですが、基本政策審議会設置条例第4条第2項により、2年となっております。昨日令和4年11月14日までが任期となっております。このたび委員の皆様へ再任をお願いいたしましたところ、ご了承いただくことができましたので、今日からまた新たに2年間よろしくお願いいたします。

なお、今日ご出席の株式会社山陽新聞社論説委員会論説委員岡山一郎様は、前回の審議会の開会以降にご就任をいただきましたので、会議としては今日が初めてのご参加になります。一言お願いいたします。

○岡山委員 失礼します。山陽新聞の論説主幹の岡山といいます。

編集委員室から論説委員会に替わったので、それに伴い、このメンバーということにらせてもらっております。よろしくお願いいたします。

○司会 ありがとうございます。

本日ですが、齋藤信也様、田中共子様、福島治子様のご都合で欠席となっておりますが、基本政策審議会設置条例第6条第2項により、過半数のご出席をいただいておりますので、本審議会は成立しております。

それでは、審議会設置条例第6条第1項により、会長に座長をお願いすることとなっております。以降の議事運営は阿部会長にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

○阿部会長 皆さん、失礼いたします。環太平洋大学におります阿部と申します。引き続き会長を務めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

それでは、会議の次第に沿って議事を進めていきたいと思っております。

まず、会議の公開と傍聴の取扱いにつきまして、事務局から説明をお願いいたします。

○司会 はい。傍聴ですが、今のところ傍聴の希望の方はいらっしゃいませんが、特に支障がなければ、本審議会の公開とした上、この後、傍聴希望者が来られた場合には許可を

いただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

○阿部会長 本日の審議につきまして、特に支障になる事由はないと思われまので、本会議を公開といたしまして、傍聴を許可したいと思います。委員の皆様方、いかがでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○阿部会長 それでは、本日の会議の傍聴の希望者には傍聴を許可したいと思います。

○司会 ありがとうございます。それでは、また後ほどあればということで対応させていただきます。

では、早速ですが、阿部会長様、議事をお願いいたします。

3 協議

(1) 岡山市の主要施策について

○阿部会長 それでは、協議に入らせていただきたいと思ひます。

議題に沿ひまして、まず、岡山市の主要施策について、事務局から説明をお願いしたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。

○政策局長 政策局長の吉田でございます。恐縮ですが、座ってご説明させていただきたいと思ひます。

お配りしております資料3をご覧くださいと思ひます。

2ページ目、新型コロナの現状ということでございます。

左のグラフが市内の新規感染者数の推移をまとめたものでござひまして、先ほど市長からもござひましたが、10月中旬以降、増加傾向ということになっております。

ワクチン接種につきましては、9月下旬からオミクロン株対応ワクチンの接種を開始してござひまして、10月24日からは5回目の接種も開始をしたところでございます。

また、資料の下ですが、感染再拡大への対応としましては、11月1日から新型コロナ自

宅療養サポートセンターを設置するなど、感染拡大時の対応を強化しているほか、年末年始の感染拡大に備えまして、オミクロン株対応ワクチンの追加接種の促進、ワクチン未接種者への接種勧奨などを進めているところでございます。

3ページをご覧ください。

岡山市のコロナ対策の全体像ということでございます。

これまで、感染拡大の防止、地域経済等への支援、市民生活・活動への支援の3つの柱に沿って、総合的に対策を講じてきているところでございます。

1点目、感染拡大防止につきましては、受診相談センターの運営、ワクチン接種の推進に加えまして、行政サービスのデジタル化といった、人との接触を減らす取組などを進めております。

2点目、地域経済等への支援としましては、スマホ決済ポイント還元事業のほか、中小企業や農林漁業者、社会福祉事業所などへの支援金の給付、路線バス、路面電車の運賃無料デーなどの地域公共交通応援事業など、幅広く支援を行っております。

3点目の市民生活・活動支援としましては、生活困窮者、子育て世帯などへの支援に加えまして、文化・芸術・スポーツ活動などに対しても支援をしております。

これらの対策で、総額1,500億円以上を予算計上してきておりまして、このうち市の負担額は290億円、国からの臨時交付金を除いても125億円以上に上っております。

4ページをご覧ください。

原油・物価高騰対策についてでございます。

令和4年4月に行われました商工会議所のアンケート調査では、ロシアのウクライナ侵攻などによりまして、約7割の地域企業が影響を受けていると答え、その中でも、エネルギー価格や原材料価格の高騰の影響が大きいとの結果でございました。岡山市としましては、経済界からの要望等も踏まえまして、コロナ禍における原油価格・物価高騰対策といたしまして、エネルギー価格高騰の影響を受ける中小企業や農林漁業者などに対するエネルギー購入額に応じた支援金の給付や、高齢者、障害者、児童福祉施設に対する光熱費や食料費等への支援、また住民税非課税世帯に対する給付金の給付など、市民、事業者の方の実情に応じたきめ細やかな対策を補正予算において実施しているところでございます。

5ページから11ページまでは、岡山市の総合計画に掲げる3つの将来都市像に沿った形で、市の施策をトピック的に紹介させていただきます。

まずは、5ページ、将来都市像Ⅰの経済・交流都市に関してでございます。

都心のまちづくりにつきましては、資料の左側にありますとおり、路面電車の駅前広場乗り入れやハレまち通りの1車線化などのハード整備を進めるとともに、路線バス、路面電車の高齢者等の運賃割引による公共交通の利用促進などを行っております。

また、民間の再開発プロジェクトも様々行われているところでございます。資料右側、旭川河畔におきましては、改修した岡山城が11月3日にリニューアルオープンをしましたほか、来年9月には芸術創造劇場ハレノワのグランドオープンを予定しております。また、現在、3年に1度の岡山芸術交流も開催されているところでございます。

岡山城につきましては、令和の大改修としまして、「歴史を伝える城・集う城」をコンセプトに、磯田道史さん監修のもと、展示内容を一新しております。リニューアルオープン後の4日間で約12万人の方に来場いただいております。これらを契機として、観光誘客に向け、積極的なプロモーションを行っているところでございます。

6ページをご覧ください。

地域振興についてでございます。

地域振興については、地域の課題解決や、地域資源を活用した魅力ある地域づくりに向けまして、地域振興基金も活用しながら、経済、文化、生活の3つの分野で、ハード、ソフト両面から取組を進めております。

経済・産業の振興としましては、儲かる農業の実現に向けて、農産物のブランド化や担い手の確保などに取り組んでいるほか、外環状線や中環状線の整備、さらには国道2号岡山倉敷間の交差点立体化による渋滞緩和などにも取り組むことで、エリア価値の向上を図っております。

2つ目、歴史・文化の継承といたしましては、造山古墳の立体的復元整備、万富の東大寺瓦窯跡の保存整備、高松城址の資料館リニューアルに合わせたデジタル映像の活用による魅力発信などに取り組んでおります。

3点目、生活機能の維持・向上としましては、交通不便地域でのコミュニティバス等の運行や、生活道路の整備、通学路の安全対策を行っているところでございます。

7ページをご覧ください。

産業振興についてでございます。

スタートアップの創出、成長の支援拠点であるももスタでの起業・創業支援の充実強化ですとか、拠点性を生かした企業立地の推進、そして中小企業のDX推進による競争力強化や労働生産性向上への支援など、きめ細かい支援に取り組んでいるところでござい

す。

8ページをご覧ください。

将来都市像Ⅱの子育て・教育都市についてでございます。

左側、待機児童につきましては、保育所の整備や保育士の処遇改善に取り組んできた結果、グラフのとおり、ほぼ解消をしているところでございます。今後は、量の確保から、医療的ケア児や重度障害児の受入れなど、質の向上へと施策転換を図っていくこととしております。

次に、右側、子ども医療費の助成につきましては、現在、岡山市では、通院の医療費負担を未就学児は無料、小学生までは1割負担としているところでございますが、助成対象や負担の在り方について医師や保護者等から意見を聴取する検討会を行い、助成拡充について検討をしているところでございます。また、子ども医療費につきましては、現在、各自治体が独自に助成制度を設けておまして、制度内容に差異が生じておりますので、国に対して、統一的な医療費助成制度の創設を要望しているところでございます。

9ページをご覧ください。

教育についてでございます。

教育については、授業改善に取り組んできた結果、全国平均レベルまで学力が向上しております。第2期教育大綱におきましては、これまでの取組の成果を踏まえ、個性や選択、挑戦をキーワードに、自分の考えを整理して伝えることなどに関する新たな数値目標を掲げて、さらに取組を進めております。全国学力・学習状況調査の記述式問題の正答率などにおいて、着実に数値が向上してきているところでございます。

10ページをご覧ください。

将来都市像Ⅲの健康福祉・環境都市のうち、防災・減災対策についてでございます。

平成30年の西日本豪雨を踏まえまして、ハード、ソフト両面から対策を推進しているところです。ハード対策としましては、ポンプ場や河川排水機場の新規整備や長寿命化対策を行うとともに、老朽化した下水道の管渠の更新などに取り組んでおります。また、ソフト対策としましては、自主防災組織の結成促進に取り組みまして、結成率が3年前の6割台から9割台の半ばまで大幅に上昇をしてきているところでございます。

11ページをご覧ください。

地球温暖化対策についてでございます。

2050年に二酸化炭素の実質排出ゼロを目指すゼロカーボンシティ宣言を、岡山連携中核

都市圏を構成する市町と共に行っておりまして、具体的には、太陽光発電設備等の共同購入事業や、各家庭の太陽光発電設備等から生み出されるCO₂排出削減量を取りまとめてクレジット化するJ-クレジット制度の活用などを行っているところでございます。また、令和6年3月からの実施を予定しております家庭から出されるプラスチックの分別回収に向けて準備を進めているところでございます。

これ以降の資料につきましては、参考としてお付けしているものでございます。

1つ目は、昨年ご説明しておりますが、20の指定都市で構成する指定都市市長会におきまして、特別自治市制度の法制化による多様な大都市制度の実現を目指しておりまして、その特別自治市についての資料でございます。もう一つは、岡山市の第6次総合計画の後期中期計画に基づく令和3年度の取組状況をまとめたものでございます。

また、別添としまして、机上にチラシを1枚置かせていただいております。こちらは、指定都市市長会が特別自治市実現に向けた機運醸成の一環として作成しているものでございますので、ご参考としてご覧いただければと思います。

以上、雑駁ではございますが、私からの説明は以上でございます。

○阿部会長 どうもありがとうございました。

それでは、ただいまご説明がありました岡山市の主要施策につきまして、この施策を中心にとということで、それぞれの委員さん方からご意見をいただきたいと思っております。まず、ただいまの説明に対しまして何か疑問点とか質問がございましたらお願いしたいと思いますけれども、いかがでしょうか。

○前野委員 10ページの左の下のところの処理場・ポンプ場の耐震対策等とあるところで、必要施設が5施設とか21施設とかありますけれど、これは現在まだ済んでない施設という理解でよろしいでしょうか。

○下水道河川局長 下水道河川局です。委員ご指摘のとおり、そのとおりでございます。まだ終わってないところです。

○前野委員 ですから、やはりここらをしっかりしないと、いざというときに役に立たない可能性があるのでは、よろしくお願ひしたいと思います。

○阿部会長 ほかにいかがでしょうか。よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○阿部会長 もしご質問がございませんようでしたら、それぞれの委員さん方の専門分野を中心にご意見をいただければと思います。なかなか挙手をしてというのはやりにくいかなとも思いますので、名簿の順に従ってということによろしゅうございますか。

それでは、赤木委員さん、お願いできますでしょうか。

○赤木委員 盛りだくさんな内容なのですが、新型コロナウイルス感染症に対する対策として大変多くのお金を支援として出しておられるようですけれども、3ページの3の市民生活・活動への支援というところの一番下にある文化・芸術・スポーツ活動や市民活動への支援というところは具体的にどのようなことをされているのかということ伺えたらと思います。

それとも関連して、5ページ目の将来都市像、都心まちづくりのところ、前回のこの委員会でもお伺いしましたが、この図でいうと右側、岡山城の辺りの整備に関して何か具体的にプランなどが出来上がっているのかどうかということですね。この図では、岡山芸術交流2022という四角で囲った場所がありますけれども、実際にはこの会場はいろんなところで分散されているのではないかと思います。岡山城主要部跡地整備の検討ということも含めて、具体的なものがあればぜひお示しいただけたらと思いますのと、この近辺、岡山市立、また県立、また民間の様々な文化施設があります。そしてまた、そこにハレノワが加わってくるということで、活性化が期待されているのではないかと考えております。それぞれの施設の連携であったり、遠方からいらっしゃるお客さんももちろんですけれども、地域住民、新たにこの再開発でマンションの住民なども増えていくと思います。そういった中でのコミュニティ形成などに資する役割も文化施設には求められるとっておりますので、そういったことに対する支援などもぜひしていただけたらと考えております。

そういった点で、6ページ目にある将来都市像、地域歴史・文化の継承のところ、市街地だけでなく、岡山市内の様々な歴史ある地域について目配りされている点は本当にす

ばらしいことだと思っております。これからもそういった岡山市内に散在する様々な文化財を大切にしていって姿勢を保っていただけたらと願っている次第です。

以上です。

○阿部会長 どうもありがとうございました。

それでは、事務局のほうからお願いできますでしょうか。

○市民生活局長 市民生活局でございます。

文化芸術でコロナ対策は何がなされたかという、まずそういうご質問だったと思います。

令和2年、令和3年と、文化活動、芸術活動が下火になることを懸念いたしまして、文化の灯を消さないプロジェクトということで、この2年間、活動支援やキャンセル料の支援、そういったことをさせていただいております。また、スポーツ活動については、スポーツ団体への感染予防のための補助金なども交付いたしております。

また、まちづくりとしての文化芸術というなお話をいただいたかと思えます。

令和3年度に、岡山文化芸術基本条例をつくっております。また、それに基づく新たな岡山文化芸術推進計画も今年9月にはできております。ですから、文化芸術をキーワードに、またまちづくりの核として、ぜひ皆さんと一緒に広めていきたい、そういった気持ちでおります。文化芸術の担当局の立場としてはそう思っております。

○政策局長 政策局長でございます。

都心まちづくりの関係について少しお答えをさせていただきます。

まず、岡山城主要部跡地整備の部分でございますが、こちらは本年度、市民の方から、どういった施設を整備してほしいかといったヒアリングを行っておりますのと、あとは民間の事業者にも、民間による施設整備が可能かどうかといったところを中心にサウンディングを行ってきているところでございまして、今後、本年度中をめどに、こういった内容も踏まえて整備の方針をお示ししていきたいと思っております。

委員がおっしゃいましたとおり、この右側の地域というのはいわゆる歴史文化の集積したゾーンでございまして、11月には岡山城がリニューアルオープン、そして来年9月にはハレノワ劇場もグランドオープンということで、そういった歴史文化という特徴も生かし

てにぎわいづくりに取り組んでいきたいと思っているところでございます。

○阿部会長 それでは続きまして、岡山委員さん、お願いできますでしょうか。

○岡山委員 先ほどの中心市街地の話の中でお話をしたいと思いますのですが、公共交通の無料デーをこの前から連続でもやり始めて、結構人がいつも乗っていると認識しております。その岡山市の取組も全国でも早いうちに取り組んで、岡山市に問合せが随分来ているという話も聞きます。札幌や旭川も続けましたし、みんな関心を持って進めている施策ではないかと思いますが、今はコロナ対策の地方創生の臨時交付金を使ってやっているのではないかと思いますが、財源が仮になくなっても継続できる公共交通の利用促進に結びつけるような手だてが何かできないか、そのようにしていただきたいという気がします。

もともと根本的に、政策目標に公共交通の分担率のアップというのを打ち出されていないことはないと思いますが、前面的に打ち出されているのか。前、交通戦略に書いてあったかと思うのですが、今この計画には書いてあるのかどうか分かりませんが、分担率がアップするということを前面的に押し出していただけたらという気はします。商店街を見てみても、中心商店街も日曜日のほうが余計人がいないぐらいの場所がありまして、市民会館もできるから多少変わる面もあるかもしれませんが、やはり車じゃなくて公共交通で都心に来る人を増やさないとなかなか街のにぎわいは出てこないのではないかと思います。

それで、公共交通のことでいえば、バスのことをいろいろやっていますが、JRとの協働といいますか、JRの改善というのも含めて一体的にやっていただけたらと思います。岡山市公共交通網形成協議会もJRの話はあまり出ないですね。大体バスの話で、JRを含めてどう一体化していくか、二次交通としてバスを駅からアクセスするとか、それからJRの運行改善的なもの、去年ぐらいですかね、吉備線でパターンダイヤを午後からやっていますけど、非常にパターンダイヤになると使いやすい感じがいたします。今の各県の取組、富山でもパターンダイヤを研究してパターンダイヤに持っていく話をしていますし、昨日もスイスの鉄道関係者の方の話を聞いていますと、やはりパターンダイヤにして分かりやすくして、それから頻度を高めるということを政策目標に上げてやっていって、どんどん乗客が伸びているということなので、そういうダイヤの改善。今度、赤穂線でJRとの協議会ができるかと思いますが、そこでもそういう話ができるのかどうか分かりま

せんが、そういうことを進めていただけたらと思います。

それから、歩行者天国を今度27日にハレまち通りと西川緑道公園で初めて一体的にやるかと思っています。どんなことになるのか、非常に期待をしております。各都市を見ると、みんな車中心の都市ではなくて、都心部を歩行者空間にするという動きが非常に目立ちます。この前も仙台に行きましたら、青葉通りの駅のすぐ前を止めてしまうとか、熊本も新しくできたバスセンターのところが相当広い歩行者空間に変わっていますし、大阪の御堂筋だって側道を全部歩行者空間にしようとする中で、岡山市もハレまち通りを半分歩行者空間にしたので、そういう方向性をどんどん進めてもらって、例えば西川緑道公園の側道もホコ天をたまにやっていますけど、一々そうすると大変お金がかかり、警備にもお金がかかるので、やはり恒常的に標識で、日曜の何時から何時まで歩行者天国みたいなところまで持っていけたら、比較的特にお金もかからずにできるかと思っていますので、そういうところを目指していただけたらと思います。

○阿部会長 ありがとうございます。

私も、公共交通とか都心の交通の関係で、スペースが限られているということもあって、説明が少し少ないように感じましたので、もし事務局から何か最近の取組でこれほどいうことがあればお願いできればと思いますけど、いかがでしょうか。

○都市整備局長 都市整備局長です。

最初に、無料デーの話がありましたけれども、無料デーについては先日の11月3日にも実施しましたけれども、11月3日は伸び率も前週と比べて一番これまででよかったというところでありまして、利用者数も一番これまでと比べてたくさんの方に利用していただいたというところでございます。

このことが実際の公共交通の分担率の向上につながるかという話がありました。それにつきましては、公共交通の重要性というのは、これからの高齢化を見据えると、これまで以上に大切なもの、重要なものになっていくということございまして、分担率を上げていくということは非常に重要だと思っております。

そうした中、無料デーはコロナの対策ということでやらせていただいておりますが、これまでも公共交通網形成計画というのを策定させていただいております、その中で、高齢者、障害者に対して路面電車、路線バスの運賃を半額にするハレカーフというカー

ドを岡山市で発行させていただきまして、多くの方から今なお申込みが出ておまして、公共交通のバスの分担率から考えると本当に高齢者は僅かですけれども、その数字を見ると、それをはるかに超える率でハレカハーフが発行されている状況が続いておりますので、分担率の向上にもつながっていくのではないかと考えております。現在は、コロナということで中断しておりますけれども、路線の効率化、集約等をして、もっと持続可能なものに路線網の見直しを今後やっていかないといけないと考えておりますので、コロナが収束してその協議ができる状況になりましたらそれを進めて、公共交通の分担率が少しでも上がるようにしていきたいと考えております。

それから、JRとの取組についても、JRとの乗り継ぎ等も便利に安全にできるようにするという目標で、その一つとして岡山駅への路面電車の乗り入れをやっておりますし、パターンダイヤや頻度の話もございましたが、今中断しておりますけれども、桃太郎線のLRT化の計画においてはパターンダイヤや頻度の向上というのを目標に掲げて検討しておりましたので、これにつきましても、今コロナのことで中断しておりますけれども、再開後はそういったことを踏まえた上で協議を進めてまいりたいと考えております。

それから、県庁通りの話がありましたけれども、11月27日に西川緑道公園と県庁通りの市役所筋から西川までの区間、両方合わせて歩行者天国にするということとともに、その日は無料デーも実施いたしますので、これには皆さんもご参加いただければありがたいと考えております。道路につきましては、これまでどちらかという通行する空間としてのウエイトが大きくて、そういった整備を進めておりましたけれども、特にまちなかの歩道につきましては、それに加えて、憩い楽しめる空間となるように歩道を広げて進めているところですので、今後ともそういった考えを持って道路整備も行ってまいりたいと考えております。

以上です。

○岡山委員 赤穂線の協議会というのはどんな具合でしょうか。運行の改善に役立つような話になるのでしょうか。

○都市整備局長 赤穂線の協議会については、まだ何もこちらのほうでは把握できてないので、どういったことになるかというのはまだ今のところは分からない状況です。

○阿部会長 それでは続きまして、祇園委員さん、よろしくお願いいたします。

○祇園委員 今の中心部の件ですけども、我々はちょっと中心部から離れております。ここへ行くまでの交通機関、これが今、歩行者天国の日は無料ですよと言いながら、通常は数の少ない、1時間に1本あるかないかのバスを利用しながらということになると、どうしても自家用車で行くと、駐車場がない。それならやめておこうかという雰囲気、周辺部にあるかなと、1つそれが気になっております。

それからもう一つは防災の件で、10ページですが、我々のところもポンプがありますが、もう耐用年数を過ぎております。何かあったときには故障というようなこともありますが、ただ、笹ヶ瀬川の東側、一番南の端の水が溜まる場所へ我々はいるのでありますが、新しいポンプが2つできます。笹ヶ瀬川、川そのものがもつのかなと。かき出すのはかき出すけども、流れてこないよと、ではどういうことになるかということ、自然に水かさが増してくる。特に笹ヶ瀬川の一番南の端、藤田のほうに行くと、市内中心の水が全部流れていく。そこでかき出すところがないというのも、これも非常に問題だと思っております。その辺の解決方法、これが今一番我々が気になっているところです。

それからもう一つは、ハザードマップですけども、まだ正式な数は把握しておりませんが、見たことがないという人が結構多いので、いかがかなということと、この前更新されましたが、それも分かってない人も結構多いので、その説明をするのがまた大変というところで、どこで避難しましょう、どうしましょうというようなところがありますが、皆理解してないところが多いので、その辺も1つ気になるところでございます。

それぐらいで、あとは皆さん言われたとおりなので、気になるところはいっぱいありますが、特に我々のところは水の問題、これが多いのと、それから交通も中途半端なところということで問題があるかなと、その辺りもお願いしたいと思います。

○阿部会長 ありがとうございます。

事務局から何か補足等の形で説明いただくことはございますでしょうか。

○都市整備局長 都市整備局です。

交通の話については、先ほど少しご紹介させていただきましたけども、65歳以上高齢者全ての方、これまでは免許返納者だけが対象で、事業者が負担で半額をやっておりました

けれども、65歳以上の高齢者全てを対象として運賃が半額になるシステムを岡山市のほうでやっております、ぜひそのことも皆さんにご紹介いただいて、どんどん利用していただきたいと思っております。

それから、路線が廃止されたところとか、もともと公共交通がないところでなかなか移動がしにくいというところに対しては、生活交通というデマンド型の乗合タクシーをやっておりますので、これは運行経費の8割を岡山市が負担する形で、低廉な運賃で持続可能なものとしてやっておりますので、少しでも興味があれば地元の方にご連絡いただければ、実現しなくても、必ず実現できるかどうか分かりませんが、実現を目指して丁寧に説明しながら一緒になって取り組んで、市内では今8地区やっておりますので、ぜひぜひ岡山市のほうに問合せ等していただければと思っております。

以上です。

○下水道河川局長 下水道河川局長でございます。

笹ヶ瀬川東の浸水対策についてご質問があったかと思えます。

笹ヶ瀬川の東側につきましてですけれども、近年でいいますと、北長瀬のポンプ場の設置や、また当新田のポンプ場の増設とか、そういった対策を行っているところでございます。それと、一番今ソフト対策として行っているのが、事前の取水の制限と申しますか、旭川から取っている合同用水、合同堰から取っている水を、天気等を見ながらいち早くまず取水を止める、そしてそれと同時に下流で排水をして用水路を空にするという対策を、我々下水道河川局とそれから農林、道路等、連携して行っているところでございます。

また、民間にお願いしまして、平成29年に条例をつくりまして、3,000平米以上の開発等を行う場合は岡山市と協議をしていただいて、流出抑制のそういった施設を造っていただくようお願いして、岡山市としても補助金を出すということでも対策を行っているところでございます。

以上です。

○危機管理監 危機管理監でございます。

ハザードマップについてお尋ねをいただきました。

ハザードマップについては昨年度、土砂災害、洪水、あと津波のハザードマップを更新しております。現在、市役所、区役所、支所、公民館等で必要な方には配付するという形

できておりますが、ご指摘のとおり、配付枚数を見ましてもまだ全世帯の1割程度にし
か配付ができてないのかなと思っているところでございます。

そして、現在、高潮のハザードマップを作成しております、今年度末には完成予定と
なっております。この高潮ができますと、一通りのハザードマップができることになりま
すので、来年度改めて、市民の皆様はどういうことで周知ができるか考えてまいりたいと
考えているところでございます。

以上でございます。

○阿部会長 それでは続きまして、高谷委員さん、お願いできますでしょうか。

○高谷委員 はい。失礼をいたします。高谷でございます。

商工会議所と商工業という立場でご質問なりさせていただければと思います。岡山市の
皆さんに対しましては、コロナ禍の中で商工業者に対するご支援、本当に感謝申し上げた
いと思っております。

先日、岡山市にもご提言をさせていただいて、特に今はエネルギー問題、原油それから
電力料のアップということで、本当に各事業所、かなり利益圧迫というのが今出ておりま
す。もちろん為替の問題等々あるのですが、それに対しても、先日、岡山市のほうから補
助をいただくという政策が発表されました。ただ、これも一過性のもではありますが、
いろいろ調べてみますと、省エネの対策ができてない、今県も幾らか補助金ということで
大型の補助金が出ておりますが、まだまだ中小零細も、例えばLED化ができてない等々
もありますので、ぜひこのあたりも注視をしていただければありがたいと思っておいま
す。

それから、今生産性向上と言われるのですが、岡山の中で一番いろいろ聞いておりまし
て問題になっているのが道路事情だと思います。大森市長になられて、本当に道路網とい
うのが見えるように早く工事が行われているという自覚もあるのですが、さらにこのあた
りを最重点課題としてお願いをしたいと思っております。

また逆に、以前、大森市長の、高速道路を使いながら一般道路を緩和していくという政
策がありました。これは僕らにとっても非常に重要なことじゃないかなと思いますので、
そのあたりももう一度お考えをいただければと思っております。

それから無料デーについて、実は私も11月3日、自宅から市内までバス、公共交通を使

って出ました。ただ、今都市整備局長からも数字の話が出たと思いますが、逆に体感的にもっと利用できるだろうと実は思っております。このあたりは広報の問題が少しあったのではないかな。確かに少しずつ上がってきているのは実感としてあるのですが、まだPRできてないと感じます。たまたま私も路面電車で待っていると、お年寄りご夫婦が料金表を見ているので、今日無料デーですよとお声がけしたら、「そうですか、そんなんあるんですか」ということを言われている方もいらっしゃったので、このあたりは岡山市だけじゃなくて各種団体がもう少しPRをしていく必要があるな、せっかくの政策ですからPRする必要があるなと思いました。

それから、これはコロナ対策ということで無料デーがあったのですが、ちょっとお伺いしたいのですが、経済効果もしっかりとこれからを見据えた公共交通の在り方、無料だけではなくて、これは無料デーをベースにしながら経済効果がどうだったのかというのはぜひお伺いできればと思っております。

それから最後に、今回、ハレまち通りという通りができたわけではありますが、実は岡山商工会議所からも岡山市のほうに提言をさせていただいて、やはり歩ける街というのは、これが何通りかとか何道かとか、これが分かると非常に説明もしやすいですし歩きやすいということで、通りの名前を去年提言をさせていただきました。このあたりの道路の道の名称とか、このあたりをさらに広げていくのかどうか、ご意見いただければと思います。

たくさん質問してしまいましたが、よろしくお願ひします。

○阿部会長 ありがとうございます。いろいろと忌憚のないご意見をいただきましてありがとうございます。

事務局からお願いしたいと思ひます。

○産業政策担当局長 産業政策担当局長です。

一番最初の、今後まだまだ中小企業の方は省エネ対策ができてないところもあると、今後の動向を注視してほしいということに対してですけども、今現在、先ほど説明でもありましたエネルギー価格高騰に対する支援や省エネ設備の導入に対する補助金ということで、今回、省エネ機器に関しては、LEDの照明機器や空調設備、冷凍、冷蔵庫のようところに絞ってさせてもらいましたが、今後どういった施策が必要になってくるかということにつきましては、今、国でも様々なエネルギー価格に関するところで議論されております。そういった動向も見ながら、また商工会議所、商工会等、経済団体の方のご意見を

お聞きしながら、今後また考えていきたいと思っておりますので、引き続きよろしくお願
いいたします。

○都市整備局長 都市整備局です。

まず、道路整備についてです。

市内中心部、その周辺等でいまだに多くの渋滞が発生しているというところでございま
して、中心部を通らずに目的地に行けるようになれば中心部の交通も減って、まちなかを
もっともっと楽しめる空間に再構築できるのではないかということで、中環状、外環状の
整備を進めているところでございます。

もう一つ、今始められたのが、国で、岡山と倉敷を結ぶ国道2号の交差点の立体化でご
ざいまして、慢性的に渋滞が発生しております。1日に10万台ぐらいの車が通っている、
中国地方でも一番の渋滞をする区間でございますので、立体化による渋滞緩和が大きく期
待できますので、この事業をできるだけ早く進めていただくよう、国とも協力しながらや
っていききたいと思っております。このことで、例えば早島インターから岡山の市街への物
流なども時間が読めるようになりますので、こういった意味では、一般の車だけではなく
てそういった物流関係に対しても大きな効果が期待できるのかと思っております。

それから、高速道路、もう一つは、吉備にスマートインターチェンジというのがありま
すけれども、これが今、時間制限があって、車両も制限がありますので、この周りの道路
を、国がやっている180号のバイパスに併せて周りの道路を整備することで、24時間大型
車も通行できるようにしようということで、この整備を今急いでやっております。これも
できるだけ早く完成して、53号だけではなくて、岡山インターから180号も活用して市内
に入ってくる交通の分散化が図られれば、少しでも津島付近の渋滞も解消できて時間が読
めるようになるのではないかと思っております。

それから、無料デーについて、広報が少し足りないのではないかという話がありました
ので、これについてはまた、どういう方法でさらに皆さんに周知ができるのか、少し考え
ていきたいと、商工会議所にもぜひ広報についてもご協力いただきたいと思います。

それから、経済効果についてですけれども、この無料デーによって、市内の人が通行す
る量も増えておりますし、それと、天満屋や高島屋などの百貨店の利用も3割から4割増
えたという話も聞いておりますので、これも今年は8回やりますが、この8回によってど
のような変化があったのか、これについても分析していきたいと思っております。

最後に、道路愛称でございます。道路愛称については、今回は、県庁通りを整備したところと、それから千日前商店街の愛称を募集しましたけれども、道路愛称をつけることで地域に対する愛着とか道路に対する愛着が増していくのではないかと期待しておりますし、先ほど高谷さんからもお話がありましたけれども、目的の場所を案内するのに愛称があれば非常に分かりやすくなりますし、そのことで愛称が定着するということもありますので、ぜひこの愛称を皆さんに認識してもらって、商工会議所からご提案いただいた愛称も含めて広く浸透していくように、これからも一緒になって進めていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

以上です。

○阿部会長 それでは続きまして、西田委員さん、お願いできますでしょうか。

○西田委員 はい。失礼いたします。

私、今日車で通っております、岡山駅前から市役所にかけてすごく都市化が進んできたと思っております。そして、美しい街並みになってきたと私は最近すごく実感しておりますので、これからもまちづくりのために、市の皆さんは大変だと思いますけど、よろしく願いしたいと思っております。

保育園の待機が最近すごく減ってきたことはうれしいのですが、最近、痛ましい事故が全国で起きております。それで、岡山市は保育園に対してどのような指導を、だんだん民間の保育園もできておりますので、指導をされているのか、少しお聞きしたいなと思っております。よろしく願いいたします。

○岡山っ子育成局長 岡山っ子育成局長です。ご質問ありがとうございます。

今おっしゃっていただいたのは、保育園での事故のことだと思ったらよろしいでしょうか。

○西田委員 はい。

○岡山っ子育成局長 私も毎日毎日全国的にそういった事故が発生しているということで、本当に気をもんでいるところです。たちまち昨日、一昨年起きました遊具に関する事

故については検証いただいたところでして、どういう指導をしているかという、年に1回必ず指導監査というのを行っております。そこで、子供に対する人数当たりの保育者の数であるとか運営の状況、そういったものはしっかり確認をしているのですが、今回の場合、遊具の安全性に関する義務的な規定というのが実はありませんでした。保育園というのは、先生たちがついて子供さんを遊ばせるということで、この事故が起きるまで岡山市ではそういった確認はしていませんでしたけれども、これがあって、安全性を一斉点検いたしております。その危険性について、除去するのであればしていただきますが、難しいのは、子供さんが遊ぶ中で、自由な遊びをさせながらも安全に過ごしていただくというところで、それが園の方針でしっかり見守りをさせていただくポイントが分かって、そこをお伝えした上で教育をしていただくということも可能ということにしております。

おおむねそういったところでよろしいでしょうか。

○阿部会長 よろしいですか。

○西田委員 はい。

○阿部会長 それでは続きまして、原田委員さん、お願いできますでしょうか。

○原田委員 はい。それでは、私のほうからは、経済の全般についてお話をさせていただきます。

4ページ目に、本当にきめ細かい対応をされていると感じております。最近の状況でいいますと、企業の状況では、20年度は、2020年はコロナ禍ということで非常に資金繰りの面でも大変で、20年度は非常に融資の申込みが多かった。21年度は、少し落ち着いた形になっていました。22年ですが、最近の状況を見ると、少しまた企業の借入れが増えてきている状況です。

企業の借入れが増えてきている中身ですけれども、1つは、これはいい話ですが、設備投資が少し増えてきている。これは前向きな話です。それからもう一つは、ここにありますように、価格高騰による原材料の高騰、それに伴う運転資金の増加、こういったものが少し増えてきているという状況があります。このアンケートにもあるように、ここでは

7割程度の方に影響があるということですが、恐らくこれがもっと今後増えてくると懸念をしております。

今まであまり物価の上昇について、日本は全くそういうことがありませんでしたが、ここへ来て大きく状況が変わっており、やはり円安の影響が非常に大きく影響してきているということです。今日あたりは139円ということで、2日ほどの間に5円も円高になったりというような状況もありますが、そういう状況にはありますけど、やはりこれからアメリカの金利はまだまだ上がってくる、5%を一応視野に入れているということで、日本との金利差はまだまだ大きいものがある、そういう中で、円安基調というのは今後も当分は続くのかなど。そうなってくると、実際に今も経営者の皆さんが非常に原材料価格の高騰については懸念をされておりますけれども、これから先、もっともっとそういう影響が顕在化してくるのではないかなということを懸念しております。もちろん、ここに書かれているように、企業の方だけではなくて個人の方にも非常に影響が出てきている。電気料、ガス、食料品、こういったものは本当に毎日のように値上げが続いているので、そのあたりの対応は引き続きしっかりしていただきたいと思っております。

それからあと、7ページのところですが、いろんな取組をされており、スタートアップ支援も、我々金融機関も一緒に運営協議会に参加させていただいて、活動もさせていただいております。地元でスタートアップ企業が誕生することは中・長期的には非常に重要なことで、地域で雇用の確保ができたり地元の発展につながっていきます。ぜひこういったことは継続が重要だと我々も感じておりますので、そういう取組をしっかりしていただきたいと思います。

そして、デジタル化の推進のところですが、DXについては絶対に進めていかないといけない分野だと思います。このあたりは特にスピード感を持って対応する必要があると思います。

最後に、11ページ目でございますけど、ゼロカーボン、脱炭素化ということで、岡山市も脱炭素先行地域を目指して積極的に取り組んでいらっしゃるということで、これは企業も同じですけれども、しっかりとロードマップをつくって着実に取り組んでいくというのが非常に重要だと思います。

私からは以上です。

○阿部会長 ありがとうございます。

事務局から何か発言がございましたらお願いいたします。

○産業政策担当局長 産業政策担当局長です。

産業関係で3点ほどご意見をいただきました。

今の原材料・エネルギー高に対する支援を継続するというお話です。我々もいろいろ状況等については調べておまして、国で行っている融資、いわゆるゼロゼロ融資というのが9月30日まで延長されました。その返済期間が始まるピークが来年の5月から8月頃ということも聞いております。そういった状況も見ながら、どういった支援策ができるかということ、また、国からまた地方創生臨時交付金が来るというようなことも聞いておりますので、そういったものを活用しながら考えていきたいと思っております。

それから、スタートアップに関しましては、駅前のイコットニコットに、ももスタというスタートアップの拠点施設を設けて支援を行っているところでありますけども、岡山市内で二十数社スタートアップ企業というものがあるということで把握しております。こういったところ、中には上場を検討しているというような企業もあるということを知っておりますので、そういったところをしっかりと金融機関の皆様へ情報をいただきながら、その辺りの支援はしっかりしていきたいと思っております。

それから、デジタル化につきましても、これは昨年度から本格的に、中小企業が実際に自社でどういったデジタル化ができるのかという、まず検証のところをやってもらう支援や、その検証結果に基づいてどういった施設を導入すべきかというようなところで、実際に設備を導入したときの補助金等の支援をしております。今年度は、なかなかデジタル化になじまないような中小企業の皆様もいらっしゃるということで、デジタル関係の事業者と実際の中小企業者とのマッチングというような事業も始めております。こういったところも重要だと思っておりますので、やっていきたいと考えております。

以上です。

○環境局長 環境局長です。

脱炭素の件でございます。

国のほうでは、2050年までに二酸化炭素の排出実質ゼロということで、2030年には2013年度比で46%削減というのを目標にされました。そういう中で、岡山市でも、地球温暖化対策の実行計画において、国と同じ数値目標にしたところでございます。

そういう中で、ご意見いただきましたロードマップにつきましては、今、国のほうの補助金も頂きながら、作成に向けて今取り組んでるところでございます。また、先行地域につきましては、残念ながらまだ選定には至っておりませんが、1つそういう中で、11ページの右下にあります電力の再生可能エネルギーの活用というところがあります。岡山市の焼却場というのは一つの大きな発電施設ということになり、エネルギーを地産地消で使っていくということが1つ大切なことになってくると今考えておりまして、そういうことを中心に今後も取り組んでいきたいと考えております。

以上です。

○阿部会長 ありがとうございます。

それでは前野委員さん、お願いできますでしょうか。

○前野委員 はい。それではまず、5ページ目の都心まちづくりについてですけど、以前と比べていろんな、表町であったりとかお城の辺りであったりとか駅であったりとかいろいろなところがこれを見ると有機的に結びついてきているなあと実感がしております。これはこれですごくいいのですけれど、1つ追加でぜひ、これは私の個人的な希望ですけど、岡山城と後樂園を結ぶところの現在の月見橋を、ぜひ、老朽化等もあると思いますし、今後付け替える際には木の橋にしていきたいなど。要するに、例えば錦帯橋であれば木の橋一本で人が集められるわけですね。岡山城も魅力アップ等をしておりますし、後樂園と結ぶ、岡山を代表するような、岡山の県北は木の文化がありますので、そういった木の橋で人が集えるようなものにしていただけると、すごく最強の場所になるのではないかと、こういうふうを考えていますので、ぜひ検討していただきたいと思っております。

それから、私の専門になるんですけど、10ページでございますけれど、先ほども申しましたけれど、ポンプ場の耐震、耐水、これは非常に大事ですので、ぜひとも速やかに進めていただきたいと思っております。

それから、自主防災組織がかなり94.1%と上がっていて、これは非常に喜ばしいことだと思います。ただ、3年、4年と、上昇率というか、上がっていないようですので、多少なりとも上げる努力をしていただけたらと思います。自主防災組織も、つくっただけでは役に立たないので、普段の避難訓練等をしっかりするような体制を整えていただきたいと

思います。

今年も大きな水害等で自主防災組織がすごく機能して、皆避難した後に土石流とか土砂災害が起きたと、そういった地域もありまして、全員が助かったということもありますので、組織率を上げるというのはなかなか難しいかもしれませんが、もう少し上げること、普段の訓練をしっかりしていただきたいと思います。

それと、もう一点、地球温暖化の影響を緩和するというので、ゼロカーボンということではいろんな取組がなされておりますので、これは非常に結構なことだと思いますけれど、取り組んでおってもなかなか難しい面がやはりあります。特に、地球温暖化で今世紀の終わり頃には数十センチ海面が上昇するとか、そういう危惧がありますので、そうすると、先ほどもハザードマップの話もありましたけれど、そういったハザードマップも、岡山市はもともとかなり低平地が広がっておりまして、海面が数十センチ上昇するとそれこそ岡山市の存在がなくなるとか、そういうことも懸念されますので、数十年先ではありますけれど、岡山市だけではなくて県それから国と少しずつ協議を始めて、数十センチの海面上昇に対して、今から少しずつでもいいですから、どうしていくかということを考えていく場をぜひつくっていただきたいと思います。よろしくお願いします。

○阿部会長 ありがとうございます。

事務局から何かご発言ございますでしょうか。

○都市整備局長 はい。都市整備局です。

月見橋についてです。

月見橋は、現在のところまだまだ使えるため、今、何年後に架け替えるという予定にはなっておりませんが、今後架け替えることになった際には、今、木の橋にして、橋そのものを人が訪れるような施設にしてはどうかというご意見だったと思いますので、せっかくいただいたご意見ですので、それをしっかりと参考にしながら、架け替えることになった際には検討してまいりたいと思います。

以上です。

○危機管理監 危機管理監でございます。

自主防災組織についてお尋ねをいただきました。

自主防災組織の結成促進、我々もできる限り助成制度の拡充とかを毎年やっているところでございますが、昨年、一昨年とコロナの影響がございまして、結成促進につきましてもなかなか地域でそれを協議する場が持ちにくい、あと、訓練につきましても、密を避けるということになるとなかなか、ようやくこの頃になりましてそのあたりのノウハウの蓄積ができて、現在のところは、コロナだからといって災害は待ってくれないんだという、我々もそのノウハウを提供しながら積極的に活動していただくように働きかけているところでございます。これについては、引き続きやっていきたいと思っております。

それと、カバー率ですが、自主防災組織は、連合町内会と単位町内会に結成をお願いしております、連合町内会でカバーできている単位町内会で結成ができたとしても、カバー率は上昇してきません。たくさんの方が令和3年、4年でできているかという、数十団体しかできていないのですが、カバー率94.1%が三、四年続いているというのはそういう事情がございまして。これからも、今後は特に自主防災組織、災害リスクがある町内、我々はこれについて積極的に働きかけを行ってまいっておりますので、これを続けてまいりたいと思っております。

以上です。

○前野委員 先ほどの海面上昇について、今後どういう対応を考えられているかというのを、例えば数十年先といっても、割と早く来るんですね。そういったときに、ゼロカーボンと言いながら、日本だけではないので、海面上昇については恐らく何十センチか上がるというのは間違いないのではないかという感覚は持っているのですけれど、そうなったときに、今からある程度少しずつ考えていくような場を設けていかないといけないと思うので、その辺もぜひ検討していただけたらと、こういうふうに思うのですが、いかがでしょうか。

○危機管理監 危機管理監でございます。

海面上昇についての防災対策、先生がおっしゃられるように考えていかないといけないと思っておりますが、現在のところまだ具体の部分できておりません。これから研究してまいりたいと思っております。

○阿部会長 ありがとうございます。

それでは続きまして、村中委員さん、お願いできますでしょうか。

○村中委員 失礼いたします。

保育行政に関して提言させていただきます。

前回の審議会でも申しましたが、8ページの資料にお示し頂いているように、保育の受け皿と保育士の確保について、目をみはるような成果が出ています。さらに量の確保に次いで質の向上に目標を定めた転換を図っておられ、大いに期待が持てると思います。

質の向上（個別事情への対応）について、その内容が、医療的ケア児や重度障害児の受け入れ、低所得者世帯への認可外保育施設利用料の一部給付といった具体的な計画が挙げられていますが、加えて、可能かどうかは後の審議を待たなければなりません。保護者の精神面での育児支援も、少子化に歯止めをかける意味でとても大事な課題ではないかと思っています。

乳幼児期のお子さん対象の育児相談で、育児の辛さを訴える保護者さんが増加傾向にあることを感じています。望んで出産をし、愛情をもって子どもを育てようと頑張っているのに、思うようにいかない。良いお母さんでありたいと思えば思うほど、子どもが思うようにならならず、叱りたくないのに、イライラして子どもに当たってしまう。そんな自分に自信を失い、母としての自己肯定感が低下していく姿に接して、孤独な育児が原因であるのではと胸が痛みます。

虐待等、明らかな育児失調の保護者に対する支援は進んでいると思いますが、表面的には問題なく、子どもに愛情をもって育児に取り組んでおられるようなお母さんも、内面では、良い母親でありたいと願いつつもボタンの掛け違いに悩み、育児の失調が生じているケースにも支援の手を差し伸べる必要を感じています。

子どもは、保育園やこども園での保育士や保育教諭からも愛情を受けてはいますが、やはり子どもは母親と共に育ちますので、母親の気持ちの不調は必ず子どもに伝わり、場合によっては、愛着の不全から問題行動へと発展するケースも少なくありません。幼少期の心の失調が、就学後の不適応につながり、さらに思春期・成人期へとつながっていく可能性も否定できず、それは子ども自身の不幸はもとより、保護者の悲しみと苦しみをもたらし、果ては国全体の問題にもつながっていきます。

それに対する手立てとして、子どもが通っている保育園・幼稚園・こども園で専門家による保護者対象の育児相談が身近にあることで、母親の育児の孤独感を軽減するような

施策を提案いたします。自治体が実施している公的な相談の場は設けられていますが、上述のような母親にとってはハードルが高く、気軽に悩みが相談できる場が欲しいと言われる保護者が多いことを感じています。相談を通してお母さんの気持ちが前向きになり、元気になられると、必ず子どもが変わります。子どもの気持ちが安定すると、必然的に集団への適応が良くなり、就学後の適応や思春期以降の適応能力にも影響が及びます。

専属の相談員を各園に置くというのはもちろんそれは無理だと思いますが、少ない人数の専門家が各園を巡回する形で、各園で月1回から数カ月に一度の相談会の実施で成果を上げている自治体もありますし、香川県の民間のこども園での成功例もございます。

幼少期の子どもをもつ母親の精神面をサポートすることで、二人目・三人目の出産を促し、また思春期・成人期の社会不適応等の予防につながるものと考えます。

○岡山っ子育て局長 岡山っ子育て局長です。

子育ての観点と保育の問題、育児支援、様々な方面からのご提言であったかと思いません。

今現在も、保育園の中では地域の子育て支援のセンターを持っているところがございます。これとは別に、保育園に入っていない子供さん、今、虐待に通じる無園児というのが少し見えてきているところなんですけれども、そういった子供たちを支援するための何か違う手だてがないかということも言われております。これは、今あるものでいうと、地域子育てのセンターであるとか、それから、より虐待には近くなってしまうのですけれども、地域の家庭子ども総合センターがあるのですが、今おっしゃるように連携してというところが見えづらい形になっているかもしれないと思っています。

さらに、国もご存じのように問題と思っておられて、妊産婦期からの母子保健から、子供が生まれた後、保育にまでつながるような支援を、令和6年をめどに、何か各自治体で考える、センターを設置するよという方向性も出ております。具体のメニューについてはまだはっきりはしておりませんが、もしそれで取り入れられるものがあれば、ぜひ私も考えていきたいと思っております。

以上です。

○阿部会長 それでは、山下委員さん、お願いできますでしょうか。

○山下委員 よろしく申し上げます。私は、大きく2つあります。

1つは、3ページの市民生活・活動への支援のところ、生活困窮者への給付金、子育て世帯への給付金、独り親世帯、低所得の子育て世帯への支援ということで支援が行われているという、そのことは大変よいことだと思っております。一方で、今回のこの資料を見させていただいたときに、コロナによって大きな影響を受けたであろう女性の就労支援についての課題の言及がなかったように感じております。

そこで、市として女性の就労支援についてどのような課題を抱えているというか考えているかということについてお聞かせ願いたいというのが1点目でございます。

2点目は、今の村中委員のご発言と重なるところが多いのですが、9ページで、ここに「学力が全国平均レベルまで向上」したであるとか、あるいは今の岡山市の小学生、中学生の状況というのが改善傾向にあるという、このことも本当にご努力があつての結果であろうと思っております。一方で、全国の調査を見ますと、最近増えているのが、小学校期における不登校児数の激増と、それから暴力行為、これは家庭内暴力ですけれども、これが本当にこの10年で激増しております。このように、小学校期の子供たちの状況というのが芳しくないところがあります。

こういった子供を抱える親への支援というものが必要になってくるのではないかと考えておまして、そういった家族の教育相談体制についてどのような取組というものを考えておられるかを教えていただきたい、この2点でございます。よろしく申し上げます。

○阿部会長 事務局からお願いできますでしょうか。

○岡山っ子育て局長 岡山っ子育て局からは、女性全般ではないのですが、子供さんがいらっしゃるシングルの方の就業支援につきまして、コロナ禍においては、今まで、就業につながるような研修をサポートするという事業があつたんですけれども、それが今まで国家資格を取るような1年間勉強するようなものが多かつたんですけれども、CADであるとか、すぐに就職に結びつくような、そういったものを学ぶところも補助の対象になっておまして、これについても非常に好評で、受けていただいているところでございます。

それからもうひとつ、保育のほうで、先ほど、認可外に預けるときの補助を始めたような書き方があつたと思いますが、これにつきましても、多様な働き方が必要で、そして働きに行くような親御さん、この方をサポートしようとして、認可外に預ける場合に費用を

少しお手伝いしようということで始めた事業でございます。

私からは以上でございます。

○教育長 教育長です。

不登校の関係をご質問いただきました。

令和3年度の調査で、不登校は減ってはいないのですが、全国平均レベルということになるかと思えます。このあたりも、新規不登校を改善するというところで取り組んでいるのですが、なかなか不登校については改善が見られてないところで、申し訳ないと思っております。

相談につきましては、岡山市の教育相談室が操山公民館の中にあリまして、そこで面接、電話を含めて相談を受けているところです。そして、不登校の児童・生徒支援教室が市内にもありまして、そこでも心理相談員が電話、面接等で相談を受けているところです。その件数は年々増えておりますので、そこで相談を受けながら改善を目指していきたいと思えます。

それから、暴力行為ですが、令和3年度の暴力行為は、ご指摘の家庭内暴力は調査が我々ではないのですが、校内のほうの暴力行為は減少傾向と今なっておりますので、さらに努力をしてみたいと思っております。

以上です。

○山下委員 ありがとうございます。

今言われた暴力行為のことについてなんですが、確かに校内暴力が減ってはいるんです。だけど、私が問題だと感じているのは、その暴力行為というのが外に向くのではなくて家庭の中に向いていて、その家庭の中で抱え込んでしまうような状況というのがむしろ問題だというふうに思っているんで、そのあたり、家庭を孤立させないというか、そういう仕組みというのが必要なんじゃないかなという、そういうふうな意図で発言させていただきました。

以上です。

○教育長 小学校が中心になると思いますが、暴力行為があれば家庭と連携しながら解決に持っていくわけですが、残念ながらコロナで、参観日とか、参観日の後の懇談とかが、

この令和元年、2年あたり、減っているのが事実です。家庭訪問さえもできないケースもありましたので、これから改善して、子供たちも宿泊学習にもやっと思行けるようになりましたので、家庭と連携しながら、これからさらに進めていきたいと思っております。

○山下委員 よろしくお願ひします。

○阿部会長 ありがとうございます。

それでは、杉山委員さん、お願ひします。

○杉山副会長 はい。3つぐらいご質問させていただきたいと思ひます。

1つは、指定都市というこの制度ですけれど、政令指定都市になってかなりの年月がたっているのですが、できたときに恐らく県から岡山市に移管された業務があったのだらうと思ひますけれど、もっと効率化を図ってやっと思っていくということはタックスプレイヤーとして大賛成なので、ぜひこの特別市の制度を実現していただきたいと強く思ひます。重なっているところは思い切って排除していただくということが大切なのではないかと思ひます。

それから、資料の7ページで、経済・交流都市、産業振興についてのお話がございます。私、実はずっとスタートアップ支援のももスタに関わらせていただひておりました、やっと思今年にSetouchiStartupsという会社というか事業体をつくりまして、本当は資金的には大きくないのですけれど、1億円の資金を集めて、スタートアップの企業を支援しようという動きをスタートしております。岡山市の活力向上は、芸術交流とかいろんな形でできるのだらうと思ひますけれど、やはり経済が基本だと思ひますので、そういう観点からすると、ぜひこの起業・創業の支援について引き続きご支援、ご指導をお願ひできたらと思ひております。

それから次に、第6次総合計画の後期中期計画の中の指標について2つだけお話を伺ひたいと思ひております。

14番の学校教育のところ、授業でコンピューターなどのICTを毎日使用する子供の割合というのが、目標値100%に対して、令和元年から小学校では5.6から4.4に落ちておりました、状況とすると横ばいという評価をされておりましたが、正直なことを言うと、コロナの中で実は大きく変わったのはオンライン授業で、大学等でかなりオンラインが進展

してきています。その中で4.4%とか4.7というのは、これはちょっと低過ぎるのではないかと感じておまして、どういう形でこの数値を取っているのかということについて質問したいと思いますし、目標値に掲げられているように100%にすべきであって、全ての授業でICTを使うということではなくて、少なくとも1日に1回はクロームのノートブックとかパッドを使うということはあってしかるべきではないかと思しますので、この点について伺いたいと思います。

最後に、最終ページですけれども、正直なことを言うと、大森市長になられてからものすごくアクティブに、特に岡山の都心についてはハレノワとかいろんな新しい動きがすごく進んでいます。全国の都市の中でもこれだけ集中して動きが出ているというのは珍しいぐらい、間違いなく全国の都市の中でフロントランナーの一つだと思っています。この指標の29を見ると、岡山市に住み続けたいと考える市民の割合というのが79.0から79.3で横ばい、これは恐らく誤差範囲だろうと思いますので、ほとんど変わっていない。最近の山陽新聞の紙面に出ていたと思いますが、社会減、特に20代から30代の若い女性の人口流出が増加していると言われていています。これだけやっても依然として社会減が減らないのか、何かほかにやるべきことはないのかというようなことについて、少しご見解をお聞かせいただいたらと思っています。

以上です。

○阿部会長 ありがとうございます。

事務局のほうからお答えいただけますでしょうか。

○大森市長 最後にでもお話ししようかと思ったのですが、まずは特別市の話であります。

実は、全国の自治体を整理してみると、大きく分かれるのが、政令市、そして一般市、あとは町村であります。また、東京の23区という特別区があつて、そこもちょっと仕分けが違うわけであります。見てみると、1人当たりの起債額、いわゆる借金額は、政令市が圧倒的に他の3区分よりも多い、特別区に比べると10倍以上だと私は記憶しています。1人当たりの基金額は、いわゆる我々でいう預金額ですね、政令市は他の3区分に比べて圧倒的に1人当たりの額が小さい。要するに、預金はなくて借金ばかりあるという構造になっているんです。

これは一体なぜこうなるかというのが一番重要なんです、今日も本当に皆様方いろいろなご指摘があり、それ一つ一つは非常にごもつともであるわけであり、これだけ都市需要があるというように理解をしていただければいいのだと思うんですね。ただ、それに対して見合う予算がない。

ちなみに、岡山市に皆さん在住して県民税を払われていると思いますが、県民税の半分も岡山市には戻ってきていません。そういう構造になっているのです。これは何とかしないといけないのではないかということであるんですね。

ちなみに、国は今1,000兆を超える国債、借金を持っていますが、彼らは赤字公債というのが発行できます。赤字公債については、様々なプラスの指摘とマイナスの指摘があるのはご存じのとおりですが、今みたいに民間の設備投資がそこまでアップしないとなると、政府の投資というのはどうしても必要になってくる、一定額はやむを得ない。特に今、コロナとウクライナ、こういう緊急事態においては赤字公債というのは出さざるを得ないでしょうけども、我々自治体は一切赤字公債は出せません。こういうときにどうすればいいんだというのが20都市全体の思いなのです。

これは1つは、岡山市も昔は30万都市と言われていたのが、合併でどんどんここまで来た。政令市の大半もそうであります。したがって、もともとはこんなに人口70万を超える都市が20もあるなんていうことを我が国は想定していなかった。だから、横浜とか大阪なら何とかやるだろうみたいなのはあったかもしれないですけども、こういう都市を国がつくってしまったので、非常に矛盾が出ている、これが今の地方制度の実態なのであると思います。

だから、杉山先生がおっしゃるように、その矛盾を解消するという意味も1つあります。それも大きいことは大きくて、一般の人たちというのは、この政令市は8割9割を市がやっていますけども、でも県がやっていることもある、県がやっているのか市がやっているのか分からないとなると、民主主義の根幹である選挙において、今までやった政策の責任は誰なのかというところが分からない状況になっている。そういったことも踏まえて考えてみると、岡山市72万と言っても、島根、鳥取、徳島、高知県よりも今人口が多いんですね。こういう状況というのはやはり制度を変えていかなければならないということだろうと思います。これは今日お越しの大学の先生、そして経済界、またメディア、こういった方々が、今の日本の地方制度というのをどうすべきかというのを私はぜひお考えいただきたいと思っております。

一つ一つ、交通の話もあり、保育の話もあり、いろんな問題があったのですが、全て財源が必要となってくるわけであります。案外、例えば小さな村は大変だろうと思われそうですが、あれは過疎債というものが適用されて、起債をするときに返しが交付税ということで国から大きく入ってくるので、案外大丈夫。だから、そういう大きな制度的な欠陥を今日本は有している、これをぜひお考えいただきたいと思います。

杉山さんがおっしゃるように、例えばひとつの制度を政令市に持ってくるということ、それはずっと日々やっているんですけど、追いつきません。この前、地方自治をずっとやっている先生と話しましたが、もうこれどうしようもないねって、そんな感じになっているところであります。ここで言ったからどうこう変わるわけじゃないのですけれども、我々一定の都市の首長は本当にこの問題について相当強い変更意欲というか改正意欲を持っているということをご理解いただければと思います。よろしくお願いします。

○教育長 教育長です。

先ほどの14番、学校教育のコンピューターの活用の件です。

まず、この調査についてですが、文科省が行っている小6、中3の全国学力・学習状況調査の中でこの設問があって、パーセントが出ております。これは時期が毎年4月の中旬ぐらいでして、ということは、**令和元年はその前年の平成30年の実績で、令和3年**というのが令和2年の実績なのですが、GIGAスクール構想で1人1台端末が入ったのが令和3年からです。それ以前は、コンピュータールームとあって、1クラス分入れるところで、時間割、週1回ですかね、1時間やっている状況でしたので、なかなか数字が上がってない状況になっていると思います。

現在どういう状況かという、令和3年度の1人1台端末の導入によって、子供たち1人1台クロームブックというタブレットを持っています。アンケートでは、ほぼ毎日というのがパーセントになるのですが、昨年度は、慣れるということで、先生も初めて使うものでしたので、教師と子供と一緒に使ったというのが去年で、今年は活用しようということで、今使っています。

特に状況が変わったのが、この夏休みに全員の家庭に持ち帰らせました。そのことによって活用が上がっていると考えておりますので、今後の調査を待っていただければと思います。よろしくお願いします。

○政策局長 政策局長でございます。

29番の、岡山市に住み続けたいと考える市民の割合が横ばいだというところ、そして女性の人口流出で社会減がというご指摘でございました。

社会動態で見ますと、東京や大阪への流出というのが大きな要因ということになっておりまして、今の取組としましては、U I J ターンのセンターを東京、大阪に置いて、徐々に成果を上げてきているというような状況でございます。そういった取組も含めてですが、この指標の数値を上げていくには、1つ何かやればということではなくて、まさに仕事づくりみたいな話もあれば、保育を含めた子供を育てやすいですとか、交通が便利だとか、安全・安心だとか、幅広いものだと思いますので、そういった取組を幅広くしっかりと進めていきたいと思っております。

○阿部会長 はい、岡山委員さん、どうぞ。

○岡山委員 杉山先生が先ほど言っていました山陽新聞で、総務省の人口移動報告を基に調べましたら、人口流出の中で、過去は男性のほうが東京とかに出て行って、女性は地元の大学に行くとか、そんな感じだったイメージが、2000年、2010年頃から特に逆転をしております、とにかく女性が出ていっている、しかも20代の前半、後半が極めて多くて、これは非常に問題だと本当に思います。要は、出産する可能性のある人たちが出て行って、少子化がどんどん進んでしまうし、男のほうが残っていると、今度は数がアンバランスで独身率が上がってしまうということもあると思いますので、先ほど言われたように、もうちょっとそこに焦点を当てた施策が必要なのではないかと思えます。若い女性の流出対策というもの、何で出ていっているのかというところが、地方の社会に幻滅して出ていっているのではないかみたいな話もありますが、その辺のところの政策にもうちょっと焦点を当てていくことが必要ではないかと思えます。

それから、もう一点言わせていただくと、お金の流出が東京に集まっていることが、東京への人口流出を加速しているということになります。これもちょっと前調べて報道したのですが、京都大学が岡山市内の小売店をいろいろ調べていて、食料品で調べていくと、地元の資本の地元に着した店、岡ビルとか奉還町商店街で買うと非常に岡山市内に7割ぐらいでしたかね、お金が戻ってきます、経済が循環して。それが、地元資本のスーパーだともうちょっと下がって、県外資本の大きいあの辺の店だと大分下がってみたいなこと

になるので、地元で経済を循環するような話をもうちょっと何かできないか、先ほどエネルギーの地産地消という話がありましたけど、エネルギーだけではなくていろんなものの地産地消といいますか、経済循環を高めるような方策、公共調達とかも含めて、もうちょっとならないのか。

例えば倉敷市では、「made in 暮らし応援キャンペーン」というのをこの前コロナ対策で始めて、小売店に倉敷製品を置くみたいなこともやって、どこまで効果があるかはわかりませんが、そういう地元でお金を回して行って東京にお金が流出しないようなことをしないと人口社会減が収まらないのではないかという感じがします。おとといも、とても大きなイベント、岡山市関わったイベントがありましたけど、スタジアムのペア割も東京の大きな会社が仕切っているようなことで、結局お金が出ていくことになっているのではないかという気がしますので、もうちょっと経済循環を高めるようなことが何とかできないかとお願ひしたいと思います。

○阿部会長 非常にたくさんのご意見をいただきまして、ありがとうございます。もう予定の時間も来ておりますので、このあたりで意見交換については終了させていただきたいと思います。

それでは、事務局のほうに進行をお返しいたしますけども、何かございますでしょうか。

○司会 ありがとうございます。事務局としては特にございません。

4 閉会

○司会 それでは、閉会に当たりまして。大森市長からご挨拶申し上げます。

○大森市長 今回の岡山さんの東京一極集中というのは古くて新しい話で、もう全総（全国総合開発計画）の頃から、昭和30年代から、今、40年間ぐらい同じことをやっている、でも動いていないということでもあります。もちろんそういう大きな制度面の議論もしていかないといけないと思いますが、今日いろんなお話を聞かせていただきました。その中で、皆さんの一つ一つのものの共通というのは何だろうということ、やはり住みやすさみたいな

ものではないかと。経済といったときに、経済と住みやすさって、ある面ニアリーイコールとまではいかないかもわかりませんが、近い存在だと私は思うんです。

ちなみに、平成28年から令和3年までの5年間の経済センサスを見てみました。そうすると、岡山市の事業所の数でいうと0.6%増えている。全国は5%減っています。岡山市、全国これは共通ですけど、飲食、これはコロナで減っていますよね。宿泊系とか小売業も減っているんです。同じように減っているんですが、岡山市が5%盛り返しているというのは、1つ、原田さんもちょっとおっしゃったことも関連はするのですが、スタートアップもごく一部はプラスのところはあるのですが、どっちかというところと再開発が動いていますよね、岡山は。そういう建設需要とか不動産需要が1つ動いている。

もう一つ、何といたっても動いたのが子育て。子育てというのは、保育所というのもある面産業であるわけで、保育士の方が多くいけば1人当たりの給与が出て、これがまともにGDPのアップにつながっていくわけで、これは医療も全く同じ世界なので、確かに高谷さんのところの商工会議所で管轄はしないかもしれないですが、産業として見たときに、我々は全体を見て、ご指摘の、例えば保育所のもっと丁寧な保育の仕方によって、この保育の産業というのがよりよくなっていく、こういうこともあるのではないかと考えております。待機児童対策を一生懸命やったおかげで、ある面、経済自身も回るようになったという面もあると思います。

ただ、若い女性の流出というのは、これも全国的な大きな傾向であるわけです。それをどうやったらすぐに戻せるかというのは、それもなかなか一朝一夕で解が出る話じゃないと思いますけれども、ただ、我々の政策投資の配分を変えながら、子供たち、そして若い人たちへの配分を重視しながら、一挙にはできませんけど、徐々にやりながら、岡山をより住みやすくして、結果的に大勢の人に楽しんでいただけるような。最後、市民意識調査の結果を85%にするのは難しい、人間って欲があるから、少々よくなってももっと上という。それはちょっと横に置いて、実質的な満足度というのを上げていくようにやっていきたいと思っております。

今日は様々な点でのご指摘をいただきました。事務局でも整理をして、まずは来年度予算をどうするか議論させていただきたいと思っております。よろしく願いいたします。ありがとうございました。

○阿部会長 ありがとうございました。

○司会 ありがとうございました。

それでは、これもちまして令和4年度岡山市基本政策審議会を閉会いたします。皆様
ありがとうございました。

午後3時27分 閉会